

色麻町

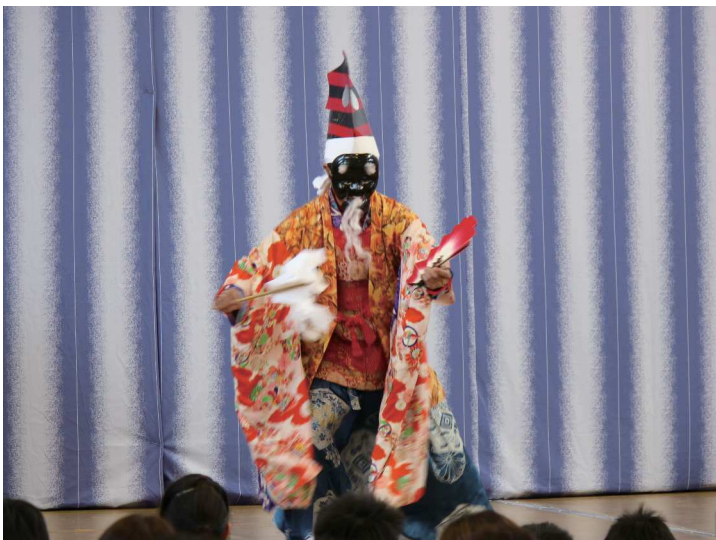


色麻町^{きよみず}清水地区に伝わる神楽です。

清水神楽は里神楽で、南部神楽の流れを汲むと言われています。

岩手県の早池峰山をめぐる修験団に伝承されてきた山伏神楽が民間に広がり、それが栗原地方を經由して当地に伝わったとも言われています。詳細な経路は不明なものの、岩出山の下野目から舞いの師匠が頻繁に訪れ教授したと言われています。

戦後も演じられていましたが、外部からの求めに応じて用具一式を貸し出したところ火災により焼失、その後復興することなく途絶えましたが、地域の伝統芸能消滅を憂う有志が中心となり、地域一丸となって昭和55年に復活しました。



同地区に所在する「音羽山清水寺」の観音堂に奉納され、平成5年には町の無形（民俗）文化財に指定されました。

色麻町に伝わる唯一の神楽であり、平成25年の船形神社42年ぶりの御開帳神事の際にも奉納されています。